様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　４ 月 ２４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００７８１

研究課題名（和文）宗教組織の経営プロセスについての文化人類学的研究

研究課題名（英文）Cultural Anthropological Study of the Management Processes of Religious Organizations

研究代表者
藏本　龍介（Kuramoto, Ryosuke）

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：６０７３５０９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本科研の成果として、『宗教組織の人類学：宗教はいかに世界を想像／創造しているか』（法藏館、2023年3月）を刊行した。本書では、私たちが理想の生き方や世界を想像／創造する上で、「宗教」――私たちが何のために、どのように生きるべきか、他者（モノやカネも含む）とどのように関わるべきかという規範を提示する言説――が極めて重要な役割を果たしていることに注目した。そして仏教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、そして本書で「西洋近代教」と呼ぶものを事例として、それがどのような世界を想像／創造しているかを民族誌的な描写を通じて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、宗教研究の射程を拡張しうる点にある。宗教研究における大きな課題は、「宗教」概念批判の先に、どのような研究プログラムを構想しうるかという問題にある。この問題について宗教人類学は、西洋キリスト教的な「宗教」概念を保持し、世界に「宗教」や「宗教性」を探し続ける傾向にある。それに対し本研究では、「宗教」を文書や伝承を根拠とする規範的言説として定義し直す。そこで重要なのは、従来、「宗教」とは異なる「世俗」と分類・特権化されてきた近代法的規範もまた、近代法という「聖典」を根拠とする「宗教」として捉えられる点にある。本研究で開示したのは、このような意味における宗教研究の「拡大戦略」である。

研究成果の概要（英文）：As a result of this research project, we published "Anthropology of Religious Organizations: How Religions Imagine/Create the World" (Hozokan, March 2023). The book focuses on the pivotal role of "religion"--discourses that present norms about what and how we should live and how we should relate to others (including things and money) in imagining/creating our ideal way of life and the world. We then used Buddhism, Christianity, Islam, Hinduism, and what we call "Western modernity" as examples to illustrate through ethnographic descriptions what kind of world they imagine/create.

研究分野：文化人類学

キーワード：宗教　組織　人類学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の問題関心は、広い意味での宗教と経済の関係にある。この問題について K.マルクスは、宗教という観念的領域（上部構造）は、経済という唯物的領域（下部構造）によって規定されるというテーゼを提出した（Marx 1845-46 など）。それに対し M.ウェーバーは、各宗教の教義や世界観は、人々の生活を枠付け、その結果、経済的現象を含む社会の構造を変革しうる独自の力をもちうるという議論を展開した（Weber 1904-5 など）。ここで問われていたのは、宗教とは「俗なる」ものなのか、「聖なる」ものなのか、という問題である。

一方、このように宗教／世俗を二項対立的に対置させる発想は、1990 年代以降、T.アサドらによって厳しい批判にさらされている（Asad 1993, 2003）。しかしこれらの研究は、言説分析を基にした宗教概念の系譜学的研究にとどまっており（島薗・鶴岡編 2003 など）、宗教概念を新たな形で鍛え直そうという試みは少ない。必要なのは、既存の「宗教」概念から捨象されてきた「世俗」を問題化し、両者の絡み合いの中で、現実の宗教実践がいかに成立・変容しているのかという動態的なプロセスを丁寧に記述することを通じて、もう一度「宗教とはなにか」を問い直すことにある。そしてここにこそ、「人間の学」としての人類学的な宗教研究の意義と可能性があると考える。

２．研究の目的

宗教とはなにか。この問題を追究するために本研究では、＜宗教組織の経営プロセス＞に注目した比較研究を行う。つまり①ヒト、②財、③言説といった諸要素が絡み合う中で宗教組織の諸活動が成立・変容するプロセスを民族誌的に記述する。そして個別事例を比較検討することによって、宗教組織ならではの経営プロセスの特徴を浮き彫りにする。こうした作業を通じて、「宗教とはなにか」という大きな問いに、一つの答えを提示することを目指す。

３．研究の方法

こうした問題意識のもと本研究では、＜宗教組織の経営プロセス＞という問題に注目する。本研究では「経営」を、①ヒト、②財、③言説といった諸要素が、相互に絡み合いながら諸活動を成立・変容させる動態的なプロセスとして定義する。その目的がいかに高邁で「聖なる」ものであったとしても、宗教組織もまた、他のあらゆる組織と同じく、経営というプロセスの中にある。それでは各宗教組織の経営は、どのように展開しているのか。その結果、宗教組織の活動はどのように成立・変容しているのか。さらにこうした宗教組織の活動が、どのような宗教実践・現象を社会にもたらしているのか。本研究では第 1 に、これらの問題を、規模も目的も活動場所も様々な宗教組織を事例として明らかにする。第 2 に、これらの個別事例を比較検討することによって、宗教組織に特有の経営プロセスの特徴を浮き彫りにする。第 3 に、こうした宗教組織の実証的研究から得られた成果を踏まえ、「宗教とはなにか」という大きな問いに、一つの答えを提示することを目指す。

４．研究成果

・概要

本科研の成果として、『宗教組織の人類学：宗教はいかに世界を想像／創造しているか』（法藏館、2023 年 3 月）を刊行した。

私たちの生きる世界はどのように想像／創造されているのか。本書ではこの問題を、アジア・アフリカ地域の様々な「宗教組織」を事例として、民族誌的に検討した。人類学者のグレーバーは、革命の前提として想像力の重要性を説いたマルクスの議論を踏まえ、私たちの生活を生きがいのある、意味あるものにするために、想像力が実用的で不可欠な役割を果たしていることを強調している。想像上の世界は、ある種の潜在的な力として私たちの行為を意味づけ導く。それによって実際のヒト・モノ・言説の関係を変容させる。つまり世界を創造（組織化）していく。言いかえれば、世界の想像なくして世界の創造はありえないということである。

本書では、このように私たちが理想の生き方や世界を想像／創造する上で、「宗教」――私たちが何のために、どのように生きるべきか、他者（モノやカネも含む）とどのように関わるべきかという規範を提示する言説――が極めて重要な役割を果たしていることに注目した。そして仏教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、そして本書で「西洋近代教」と呼ぶものを事例として、それがどのような世界を想像／創造しているかを民族誌的な描写を通じて明らかにした。

・意義

本書の意義は、第一に、人類学的・学際的な比較宗教研究の新たな分析枠組みを提示しうる点

にある。研究対象の変化と複雑化を背景として、人類学的な宗教研究はローカルな個別事例の分析に終始する傾向にある。その結果、たとえば同じ「仏教」研究であっても、地域（東／東南／南アジア）、宗派（上座部／大乗）、注目するアクターの違い（出家者／在家者）といった様々な分断があり、研究成果が相互に参照されることがほとんどない。また、かつてM. ウェーバー（一九七六）が行ったような「世界宗教」同士の比較研究の試みも皆無である。しかし個別事例から一般的問題を照射することにこそ人類学の強みがあるはずであり、過度な事例研究化は憂慮すべき事態である。それに対し本書が提示する、「規範的言説としての宗教は、どのように組織を想像／創造しているのか」という問いは、個別宗教内部での比較――たとえば仏教的規範がどのように探究され、それがどのような組織を創造しているかに関する比較研究――だけでなく、個別宗教の枠を超えて地域や時代も異なる多様な事例を比較するための土台にもなりうる。それによって各宗教の個性を浮き彫りにできるだけでなく、人類の想像上の産物としての「宗教＝規範的言説」が、人類社会をいかに創造しているかという、より一般的な問題を追求することが可能になるだろう。

本書の意義は、第二に、宗教研究の射程を拡張しうる点にある。上述したように、宗教研究全般における大きな課題は、「宗教」概念批判の先に、どのような研究プログラムを構想しうるかという問題にある。この問題について宗教人類学は現在でも、西洋キリスト教的な「宗教」概念を保持し、世界に「宗教」や「宗教性」を探し続ける傾向にある。これは宗教研究の「ニッチ戦略」といえる。それに対し本書では、「宗教」を文書や伝承を根拠とする規範的言説として定義し直す。そこで重要なのは、従来、「宗教」とは異なる「世俗」と分類・特権化されてきた近代法的規範――人権、合理性・効率性、透明性・説明責任などのみならず、「宗教」や「宗教／世俗」という区別自体も含む――もまた、近代法という「聖典」を根拠とする「宗教」として捉えられるということである。ルジャンドルのいうように、あるいはW. キーン（Keane 2007）も指摘しているように、近代法的規範自体が、西洋キリスト教的（プロテスタント的）規範の探究の結果として現れたものである。それゆえに世界宗教や民間信仰を対象としてきた従来の宗教研究は、近代法を基礎として想像／創造されている現代社会の分析にもそのまま応用しうる。本書で試みるのは、このような意味における宗教研究の「拡大戦略」である。

・各論文の概要

本書は仏教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、西洋近代教を事例とした、全七章からなる。地域的にはミャンマー、タイ、フィリピン、ブルキナファソ、インド、日本を対象としている。これらの研究は、本章で描写した理論的視座に基づき、各事例を分析している。というよりも、各事例研究から抽出された理論的視座を取りまとめたものが本章であるともいえる。実際、本書の理論研究と事例研究は幾多の往還を通して進められた。その意味で本章は、本書の序論であると同時に結論としての役割をもっている。同様に各章は、本書の理論的視座を具体化するだけでなく、それを個々の文脈においてさらに「探究」している、本書全体の考察的検討としても捉えることができる。

第一章「「善行」が想像／創造する組織――ミャンマーのダバワ瞑想センターを事例として」（藏本龍介）は、ミャンマーにおいて仏教（仏典的言説）がいかなる世界を想像／創造しているかという問題について、二〇〇八年に設立されたダバワ瞑想センターを事例として検討する。ダバワ瞑想センターの要となっているのは、リーダーであるダバワ長老を中心として探究されている「善行」概念である。藏本によれば、「善行」概念は、長老を中心とした再分配システムの形成、センターの社会福祉センター化、ヒト・モノ・カネの異種混交的な集積、組織構造の自生的発展（生成変化と動かしにくさ）といった組織の創造をもたらしている。一方で、こうした組織の創造の中で、「善行」概念自体にも「誰でもいつでも受け入れる」「実践共同体」「反管理」といった新たな意味が付け加わっている。藏本はこのような探究を、その都度、センターの理想のあり方を想像するという作業でもあると指摘する。このように藏本論文は、センターにおける「善行」概念が、センターという組織のあり方と不可分なものとなって相互構成的に展開していることを明らかにする。

第二章「「布施のゆくえ」に向き合う仏教組織――現代タイにおける布施、会計、アカウンタビリティ」（岡部真由美）は、「布施」という仏教的規範が揺らぎつつあるタイにおいて、仏教組織がどのように想像／創造されているかという問題について、二〇〇六年に設立された仏法センターを事例として検討する。タイでは一九八〇年代以降の経済発展に伴い、布施をどのように獲得・使用すべきかという問題が浮上し、仏教組織においても「説明責任」「公益性」「公共性」といった近代法的規範を無視できない状況になっている。仏法センターの事例が興味深いのは、このような状況においても組織が依拠する規範をめぐって、新たな意味の探究が生じていない点にある。岡部によれば、仏法センターが行ったのは、寺院ではなく財団として登録すること、そしてSNSという新たなメディア技術を駆使して、伝統的に寺院で行われてきたような、支援者に対する説明責任を果たすことであった。このように岡部論文は、仏教的規範と近代法的規範という区別はあっても、それが必ずしも対立を伴うものではないこと、そして組織の再編成は意味の探究のみならず、制度面や技術面の刷新によっても展開していることを明らかにする。

第三章「フィリピン・カトリック教会の政治参加と社会的影響力――ドゥテルテ政権下における司牧声明の言説分析」（東賢太朗）は、フィリピン・カトリック教会の司教協議会が、司牧声明という言説を通じて、教会・政府・国民の関係、さらには「教会＝フィリピン社会」をどのように想像／創造しようとしているかという問題を検討する。フィリピンでは、リプロダクティブ・ヘルス法の成立（二〇一二年）にみられるように、カトリック教会が堅固に維持してきた「死の文化」への拒否という基本方針に反する、ネオリベラル的な規範が台頭し、さらに二〇一六年に反教会的なドゥテルテ政権が登場したことによって、教会の社会的影響力が減少しつつある。そのような中で司教協議会は、司牧声明を通じてカトリック教義を探究し続けている。東によれば、その結果、フィリピンにおいてはカトリック的規範とネオリベラル的な規範が共存するという「同床異夢」が成立することになった。東論文は、二〇一六年から二〇二一年まで出された一〇五本の司牧声明を詳細に分析することによって、自らをフィリピン社会における倫理・道徳的なアドバイザーとして位置づけるために、教会がいかに教義を探究しているか、その戦略と実態を明らかにする。

第四章「ムスリムを組織化するということ――一九四〇年代から一九六〇年代までのボボ・ジュラソにおけるムスリムの対立をめぐって」（中尾世治）は、植民地統治以降の「世俗」的な国家におけるムスリム共同体の組織化という問題を、ブルキナファソ第二の都市ボボ・ジュラソのイスラム教を事例として、一九世紀から二〇世紀半ばという長期的な幅で検討する。中尾によれば、当地の村落部では伝統的に、「一つの村に一つのモスクと一人のイマーム」という暗黙の規範を前提としてムスリム共同体が成立していた。しかしこの規範が都市化などの社会変動の中で維持できなくなると、「ムスリム共同体はどのようにあるべきか」という新たな規範が探究されるようになる。興味深いのは、そうした探究の過程で現れた新たなモスクや公的組織が、結果として様々な対立をもたらし、より大きなレベルでのムスリム共同体の組織化を阻害することになったという逆説的状況にある。このように中尾論文の焦点は、個別のムスリム組織自体ではなく、そうした組織同士の関係からなるムスリム共同体という組織にある。そして個別組織が分断・対立していく過程を丹念に追うことによって、ムスリム共同体をめぐる規範がどのように探究されているか、その結果、当地のムスリム世界がどのように組織化されているかを明らかにする。

第五章「イスラーム教育の再創造――ブルキナファソのイスラーム教育機関を事例として」（清水貴夫）は、近代化や都市化といった変化を経験しているブルキナファソにおいて、イスラム教教育がどのように再創造されているかという問題について検討する。ブルキナファソでは独立後に旧宗主国フランスの憲法に則った国家建設が進み、近代法的言説の一つであるライシテ原則が導入された。それに伴い、伝統的なイスラム教教育機関は、新たに設定された宗教／世俗というカテゴリーや、国家が後押しする「世俗的」な公教育の普及に対峙することとなった。さらに2000年代以降、急速に進展しつつある都市化は、イスラム教教育機関の経済的基盤を大きく揺るがしている。こうした状況において、イスラム教教育機関はどのように自己定義し、変容しつつある環境に適応しようとしているか。この問題について清水は、フランコ・アラブとクルアーン学校という、連続性がありつつも対照的なイスラム教教育機関を事例として、特に運営主体である「マラブー（Marabout）」の活動に注目して分析する。それによってイスラム教教育機関という組織のみならず、イスラム教教育制度というより広い意味での組織の想像／創造プロセスを明らかにする。

第六章「ヒンドゥー寺院を形作る規範を探究する――インド・ラージャスターン州のラーニー・サティー寺院を事例に」（田中鉄也）は、女神ラーニー・サティーを祀るヒンドゥー寺院をめぐる管理権争いを事例として、寺院管理をめぐる規範がどのように探究され、その結果、どのような寺院組織が創造されたかという問題を検討する。一九六〇年代以降、伝統的に寺院に従事してきた司祭と、一九世紀に制定された公益信託制度のもとで寺院管理を新たに受託したマールワーリーと呼ばれる一族が、裁判で争うことになった。裁判では、近代法的言説に基づいて公益信託を運営するマールワーリーに寺院の管理権の多くが認められた一方で、シャーストラ（インドの古法典）的言説に基づいて司祭にも寄進財の所有権が一部認められた。興味深いのは、裁判の過程で「宗教／世俗」「公益」といった概念もまた、新たに探究され定義されていった点にある。さらに裁判後も、マールワーリーが文書的言説（女神の縁起譚など）、司祭家族が伝承的言説に依拠しながら、異なる形で寺院組織を想像し続けている。このように田中論文は、ヒンドゥー寺院を舞台として近代法的言説、シャーストラ的言説、伝承的言説が、複雑に絡み合いながら新たな規範が生み出されていく様子を明らかにする。

第七章「巡礼地管理と〈政教〉関係――四国遍路および斎場御嶽における管理組織の形成過程と法的規範」（門田岳久）は、巡礼地・聖地をめぐる規範（どのように関わるべきか、どのように管理すべきかなど）の形成過程、およびその結果として巡礼地・聖地の管理組織がどのような形で創造されていったかという問題について、四国八十八ヶ所巡礼（四国遍路）と沖縄の斎場御嶽を事例として検討する。門田によれば、これらの事例において重要な役割を果たしているのが、

近代法的言説である「宗教」概念であり、宗教／世俗という弁別である。つまり聖地やそれを取り巻く管理者や巡礼者の実践を、「宗教」もしくは「世俗」として法的に分類することが、管理組織の想像／創造プロセスに大きな影響を与えている。結果として、四国遍路の管理を担う四国八十八ヶ所霊場会は、「宗教」概念に自らをすり合わせる形で組織を定義した一方、斎場御嶽の管理は、行政・観光協会・ボランティア団体といった「世俗」的なアクターによって担われるというように、両者は対照的な組織となった。このように門田論文は、「宗教」という近代法的言説が巡礼地・聖地をめぐる諸アクターの関係を多様な形で再編成していることを明らかにする。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 中尾世治	４．巻 12
２．論文標題 人類学における理論と研究の蓄積について―ティヴの経済をめぐる研究史の検討から	５．発行年 2023年
３．雑誌名 人類学研究所研究論集	６．最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 門田岳久	４．巻 24
２．論文標題 エスノグラフィと生成変化：宮本常一の民族誌的実践を事例としたそのエイジェンシーに関する分析	５．発行年 2022年
３．雑誌名 立教大学観光学部紀要	６．最初と最後の頁 40-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 門田岳久	４．巻 306
２．論文標題 「あしもとの歴史」から考える共有の民俗学	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本民俗学	６．最初と最後の頁 103-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 門田岳久	４．巻 23
２．論文標題 虚構のボーダーレス：パンデミック下の国境管理と日常に関するオートエスノグラフィー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 立教大学観光学部紀要	６．最初と最後の頁 38-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 KADOTA, Takehisa	4．巻 8
2．論文標題 Telling Stories about Oneself: Reflexivity in Folklore Studies	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Everyday life and culture	6．最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 299
2．論文標題 インターセクションとしてのジェンダー研究：ベアーテ・ビンダー論文に寄せて	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本民俗学	6．最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 128
2．論文標題 「枠」を出る現代の観光；「おもてなし」の呪縛を超えるために	5．発行年 2019年
3．雑誌名 地域文化（公益財団法人八十二文化財団）	6．最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 79（6）
2．論文標題 近代のモビリティと巡礼団	5．発行年 2019年
3．雑誌名 運輸と経済	6．最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 4
2．論文標題 博物館と住民参加：佐渡國小木民俗博物館にみる地域とのかかわり方（クリスチャン・ゲーラット訳）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Working Papers des Japan-Zentrums der LMU Munchen	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5282/ubm/epub.70287	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tanaka, Tetsuya	4．巻 32 (1)
2．論文標題 Trustee, State and Stakeholder: Hindu Temple Management in Contemporary India, 1957 - 2012	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Interdisciplinary Economics	6．最初と最後の頁 75-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0260107919875590	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東賢太朗	4．巻 1
2．論文標題 観光を再考する、観光の人類学を再構想する	5．発行年 2020年
3．雑誌名 民博通信 Online	6．最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中鉄也	4．巻 24
2．論文標題 コミュニティの実体化と女神巡行：インド・カルカッタのカースト団体を事例に	5．発行年 2018年
3．雑誌名 宗教と社会	6．最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藏本龍介	4．巻 6
2．論文標題 組織の人類学に向けて	5．発行年 2019年
3．雑誌名 南山大学人類学研究所 研究論集（非営利組織の経営に関する文化人類学的研究）	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 門田岳久・石野隆美	4．巻 21
2．論文標題 宗教空間の経済的管理に関する基礎研究：聖地における料金徴収の民族誌的データから	5．発行年 2019年
3．雑誌名 立教大学観光学部紀要	6．最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 92
2．論文標題 久高島における巡礼ツーリストとヴァナキュラーな宗教性	5．発行年 2019年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 90-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計30件（うち招待講演　3件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 門田岳久
2．発表標題 宗教とツーリズム
3．学会等名 「宗教と社会」学会
4．発表年 2022年

１．発表者名 門田岳久
２．発表標題 コンバージェンス、レジスタンス、フォークロア：内在的批判をめぐって
３．学会等名 現代文化人類学会第25回研究集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡良美、中尾世治
２．発表標題 学際的な共同研究における異分野間コミュニケーションの実態：申請・審査過程における文書の分析を通じて
３．学会等名 科学技術社会論学会 第21回年次研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 中尾世治
２．発表標題 ローカルな知識人とヨーロッパの研究者の邂逅としての「アフリカ史学史」：アルハジ・サリム・スワレの「平和主義」再論
３．学会等名 第3回アフリカ史研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Okabe, Mayumi
２．発表標題 Rethinking the "the Religious" in Contemporary Thailand: Religious Giving, Accountability, and Globalization
３．学会等名 14th International Conference on Thai Studies
４．発表年 2022年

１．発表者名 東賢太朗
２．発表標題 Introduction: What Does "Tourism-Turn" Bring About Religion and Spirituality in the Global East?
３．学会等名 4th Annual Meeting of East Asian Society for the Scientific Study of Religion
４．発表年 2022年

１．発表者名 東賢太朗
２．発表標題 観光フィールドワークの難しさ：ビーチリゾートで起こった「事件」から考える
３．学会等名 観光学術学会第10回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 OKABE, Mayumi
２．発表標題 The Interface between the Religious and Secular: Changing Buddhist Monastic Education as a Source of Public Morality in Contemporary Thailand
３．学会等名 The 12th International Convention of Asian Scholors (ICAS12)
４．発表年 2021年

１．発表者名 岡部真由美
２．発表標題 布施のエコノミーと宗教的なるもの：北部タイにおける仏法センターの事例
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究会「カネとチカラの民族誌：公共性の生態学にむけて」
４．発表年 2021年

１．発表者名 KURAMOTO, Ryosuke
２．発表標題 How can we envision：the Anthropology of Buddhism?
３．学会等名 SEASIA(Southeast Asian Studies in Asia)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 門田岳久
２．発表標題 貨幣と礼拝：鑑賞的聖地における入場料と賽銭の〈あいだ〉
３．学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Azuma, Kentaro
２．発表標題 The community of Nostalgia: Oppression and Solidarity in the Course of Tourism Development of Boracay Island
３．学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shimizu, Takao
２．発表標題 History of earthen Mosque in Sabotenga: From the narrative of Ibrahim Sanfo, Imam of Sabotenga
３．学会等名 第56回日本アフリカ学会学術大会,
４．発表年 2019年

１．発表者名 7.中尾世治
２．発表標題 ふたつのコンテクストのなかのテクスト：アマドゥ・ハンパテ・バの「フルベ文化」(1956年)をめぐって
３．学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakao, Seiji
２．発表標題 Monetary Marginality and Multiple-Currency in the Colonial Situation: Monetary Transition from the Cowry to the Franc in Upper Volta.
３．学会等名 International Workshop for the Economic History of Africa（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takao Shimizu and Ueru Tanaka
２．発表標題 The Process for Co-Created Technology for Combat Desertification Collavoration of Afriacan Farmers and Japanese Scientist
３．学会等名 30th Society for the Advancement of Socio-Economics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 清水貴夫
２．発表標題 ネガティブな子ども像を超えて　ブルキナファソの「ストリート・チルドレン」の事例を起点に
３．学会等名 日本文化人類学会　第52回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 清水貴夫・中尾世治
２．発表標題 サハラ以南アフリカの人糞処理業者の社会経済的役割の解明に向けた予備的考察 ―ブルキナファソの事例より―
３．学会等名 第55回日本アフリカ学会学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田中鉄也
２．発表標題 現代インドのマールワーリー企業家による家族祭礼：故郷への社会貢献とコミュニティの実体化
３．学会等名 日本南アジア学会30周年記念連続シンポジウム第1回（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tetsuya Tanaka
２．発表標題 Family matters: Marwari family festivals in the homeland of Rajasthan
３．学会等名 National Seminar on Third Gender, Concubines, and Slaves: Question of Identity in Urban Space (A Study of Historical Perspective through the Ages)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡部真由美
２．発表標題 現代タイの上座仏教僧による開発実践からみた宗教と世俗の境界－チェンマイ近郊部におけるヘルスケアの現場を事例として
３．学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 東賢太朗
２．発表標題 Two Dimensions of 'the Social': Oppression and Solidarity in the Course of Tourism Development of Boracay Island
３．学会等名 The 4th Philippine Studies Conference in Japan（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 東賢太朗
２．発表標題 未来への抑圧、過去への連帯―フィリピン・ボラカイ島の観光開発に現れる新たなホストとゲスト関係
３．学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中尾世治
２．発表標題 イスラーム改革主義運動の新しさとは何か：1950年代のボボ・ジュラソにおけるメデルサ設立運動
３．学会等名 2018年度アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドネット・ラウンジ企画「西アフリカ・イスラーム研究の新展開」
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koji Hayashi, Seiji Nakao, Taro Yamauchi
２．発表標題 Defecation without toilets: Toward the study of sanitation activities in the hunter-gatherers.
３．学会等名 The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中尾世治
２．発表標題 ブルキナファソにおけるサニテーション改善の歴史と現状
３．学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藏本龍介
２．発表標題 ミャンマーにおける出家者の開発実践の変遷と行方
３．学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藏本龍介
２．発表標題 現代ミャンマーの僧院生活
３．学会等名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2018年度第2回国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 門田岳久
２．発表標題 久高島における巡礼ツーリストとヴァナキュラーな宗教性
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小西公大・門田岳久
２．発表標題 予測＝期待をめぐるエスノグラフィの可能性と有限性：宮本常一写真プロジェクトの自己分析から
３．学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計39件

１．著者名 藏本龍介編、東賢太朗、岡部真由美、門田岳久、清水貴夫、田中鉄也、中尾世治	４．発行年 2023年
２．出版社 法藏館	５．総ページ数 350
３．書名 宗教組織の人類学：宗教はいかに世界を想像／創造しているか	

１．著者名 田中鉄也	４．発行年 2023年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 306
３．書名 揺り動かされるヒンドゥー寺院：現代インドの世俗主義、サティー女神、寺院の公益性	

１．著者名 Tosa, Keiko ed., Kuramoto, Ryosuke	４．発行年 2022年
２．出版社 Tokyo University of Foreign Studies	５．総ページ数 186
３．書名 Anthropological Studies of CBO and NGO Activities in Myanmar	

１．著者名 市野澤潤平編、門田岳久	４．発行年 2022年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 194
３．書名 基本概念から学ぶ観光人類学	

１．著者名 遠藤貢・阪本拓人編、中尾世治	４．発行年 2023年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 274
３．書名 ようこそアフリカ世界へ	

１．著者名 イスラーム文化事典編集委員（編）、清水貴夫、中尾世治	４．発行年 2023年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 714
３．書名 イスラーム文化事典	

１．著者名 永原陽子編、中尾世治	４．発行年 2022年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 316
３．書名 岩波講座 世界歴史 18 アフリカ諸地域 ～20世紀	

１．著者名 遠藤英樹編、東賢太朗	４．発行年 2022年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 198
３．書名 フィールドワークの現代思想：パンデミック以後のフィールドワーカーのために	

１．著者名 後藤明・大西秀之編、中尾世治	４．発行年 2022年
２．出版社 雄山閣	５．総ページ数 392
３．書名 モノ・コト・コトバの人類史：総合人類学の探求	

１．著者名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編、中尾世治	４．発行年 2022年
２．出版社 三元社	５．総ページ数 680
３．書名 聖性の物質性：人類学と美術史の交わるところ	

１．著者名 日下部達哉編、清水貴夫	４．発行年 2022年
２．出版社 東信堂	５．総ページ数 224
３．書名 イスラーム教育改革の国際比較	

１．著者名 須藤廣ほか編、東賢太朗	４．発行年 2022年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 244
３．書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

１．著者名 田中鉄也	４．発行年 2021年
２．出版社 南アジア地域研究国立民族学博物館拠点	５．総ページ数 18
３．書名 神は財産を所有するか：英領インドにおける宗教的・慈善的な基金をめぐる法多元的な状況	

１．著者名 中尾世治	４．発行年 2020年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 606
３．書名 西アフリカ内陸の近代：国家をもたない社会と国家の歴史人類学	

１．著者名 ウスビ・サコ，清水貴夫編	４．発行年 2020年
２．出版社 青幻社	５．総ページ数 208
３．書名 現代アフリカ文化の今 15の視点から、その現在地を探る	

１．著者名 SEKI, Koki ed. AZUMA, Kentaro	４．発行年 2020年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 216
３．書名 Ethnographies of Development and Globalization in the Philippines.	

１．著者名 和崎春日編、東賢太朗	４．発行年 2020年
２．出版社 刀水書房	５．総ページ数 830
３．書名 響きあうフィールド、躍動する世界	

１．著者名 藏本龍介	４．発行年 2019年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 448
３．書名 「開発と逃避の狭間で：ミャンマーにおける出家者の開発実践の変遷と行方」石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学』	

１．著者名 藏本龍介	４．発行年 2020年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 334
３．書名 「仏教を結節点とした『つながり』と変容」土佐桂子編『転換期のミャンマーを生きる:「統制」と公共性の人類学』	

1．著者名 藏本龍介	4．発行年 2019年
2．出版社 サンガ	5．総ページ数 352
3．書名 「出家者とカネ」『お金：お金に振り回されない生き方（サンガジャパンVol.34）』	

1．著者名 岡部真由美	4．発行年 2019年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 320
3．書名 「都市に生きる場所：タイにおける「寺住まい」の実践からみる社会編成」森明子（編）『ケアが生まれる場：他者とともに生きる社会のため』	

1．著者名 門田岳久	4．発行年 2019年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 348
3．書名 「関係性としての地域開発：佐渡の集落に見る伝統・街並み・再帰性」西川克之・岡本亮輔・奈良雅史編『フィールドから読み解く観光文化学：「体験」を「研究」にする16章』	

1．著者名 門田岳久	4．発行年 2020年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 380
3．書名 「民族誌的研究とナラティヴ：対話のパフォーマティヴィティ」岩本通弥編『方法としての〈語り〉：民俗学をこえて』	

1．著者名 清水貴夫	4．発行年 2020年
2．出版社 集広社	5．総ページ数 312
3．書名 「子にかける夢と迷い：「教育」を再考する」神本秀爾・岡本圭史（編）『マルチグラフト：人類学的感性を移植する』	

1．著者名 中尾世治、杉下かおり（編）	4．発行年 2020年
2．出版社 東海大学出版部	5．総ページ数 344
3．書名 生き方としてのフィールドワーク	

1．著者名 中尾世治	4．発行年 2020年
2．出版社 集広社	5．総ページ数 312
3．書名 「集合的人格における融即と責任：レヴィ＝ブリュルとモース」神本秀爾・岡本圭史（編）『マルチグラフト：人類学的感性を移植する』	

1．著者名 中尾世治	4．発行年 2020年
2．出版社 集広社	5．総ページ数 312
3．書名 「文書のなかの固有名：インデックスとしての人格と地格」神本秀爾・岡本圭史（編）『マルチグラフト：人類学的感性を移植する』	

1．著者名 中尾世治	4．発行年 2019年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 288
3．書名 「歴史と同時代性：口頭伝承研究と歴史叙述のフロンティア」松本尚之ほか編『アフリカで学ぶ文化人類学』	

1．著者名 岡部真由美	4．発行年 2019年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 448
3．書名 「開発実践からみた宗教と世俗の境界：現代タイの上座仏教僧によるヘルスケア活動の現場から」石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学』	

1．著者名 田中鉄也	4．発行年 2019年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 448
3．書名 「女神に付与された複数の公共性：北インドの宗教的な慈善団体とヒンドゥー寺院」石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学』	

1．著者名 清水貴夫	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 400
3．書名 発展途上国の困難な状況にある子どもの教育	

１．著者名 清水貴夫	４．発行年 2019年
２．出版社 あいり出版	５．総ページ数 288
３．書名 ブルキナファソを喰う　アフリカ人類学者の西アフリカ「食」のガイド・ブック	

１．著者名 岡部真由美	４．発行年 2019年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 596
３．書名 東南アジアにおけるケアの潜在力	

１．著者名 東賢太朗	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 468
３．書名 ホスト・アンド・ゲスト	

１．著者名 中尾世治	４．発行年 2019年
２．出版社 集広舎	５．総ページ数 248
３．書名 ラウンド・アバウト	

1．著者名 Ibrahim Kalil Mangane, Seiji Nakao	4．発行年 2018年
2．出版社 Research Institute for Humanity and Nature	5．総ページ数 141
3．書名 La memoire de El-Hadji Beinke Souleymane Mangane de l'ecole coranique, a l'Union Culturelle Musulmane et a la Communaute Musulmane (1946-1960) Bobo-Dioulasso Burkina Faso.	

1．著者名 藏本龍介	4．発行年 2019年
2．出版社 南山大学人類学研究所	5．総ページ数 203
3．書名 南山大学人類学研究所 研究論集（非営利組織の経営に関する文化人類学的研究）	

1．著者名 KADOTA, Takehisa	4．発行年 2018年
2．出版社 hemen und Tendenzen der deutschen und japanischen Volkskunde im Austausch	5．総ページ数 416
3．書名 WAXMANN	

1．著者名 立教大学観光学部	4．発行年 2019年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 256
3．書名 大学的東京ガイド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	清水　貴夫 (Shimizu Takao) (10636517)	京都精華大学・国際文化学部・准教授 (34317)	
研究分担者	東　賢太朗 (Azuma Kentaro) (40438320)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	岡部　真由美 (Okabe Mayumi) (40595477)	中京大学・現代社会学部・准教授 (33908)	
研究分担者	田中　鉄也 (Tanaka Tetsuya) (60736982)	中京大学・国際学部・准教授 (33908)	
研究分担者	中尾　世治 (Nakao Seiji) (80800820)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・助教 (14301)	
研究分担者	門田　岳久 (Kadota Takehisa) (90633529)	立教大学・観光学部・准教授 (32686)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関